

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	教育学研究科
大項目	11 教員・教員組織(研究科)
中項目	
小項目	11.0.1 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。
要素	教員に求める能力・資質等の明確化 教員構成の明確化 教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化
小項目	11.0.2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。
要素	編制方針に沿った教員組織の整備 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備 研究科担当教員の資格の明確化と適正配置(院・専院)
小項目	11.0.3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。
要素	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化 規程等に従った適切な教員人事
小項目	11.0.4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。
要素	教員の教育研究活動等の評価の実施 ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性

II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度~2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA~Dの4段階とし自ら評価した。A~D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 2013年度以降の教育学部再編に併せて研究科の教員組織の再整備を進める。	→「将来ビジョン委員会の開催頻度」	B	B			
2. 研究科教員の任用に関する学部内の内規・申し合わせの作成	→「大学院問題検討委員会の開催頻度」「研究科委員会での検討」	C	C			
3. 教員の資質の向上と授業改善を図るため、FD研究会を開催する。	→「FD活動にかかわる研修会等の開催頻度と参加者数」	B	B			
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目 11.0.1	11.0.1 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。
	(方針設定の有無) いづれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 方針を定めている <input type="radio"/> 方針は定めていない
	(方針) 教育学研究科の理念・目的及び2013年度に実施予定の再編計画に合致させて教員組織を編成する。
小項目 11.0.2	11.0.2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。
	(説明) 2013年度の学部再編に連動させて研究科の再編計画を検討しているが、教員組織については将来ビジョン委員会のWGで検討を開始した。
小項目 11.0.3	11.0.3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。
	(説明) 研究科で決めた方針に基づき2010年度に前期課程指導教員の任用8名、後期課程指導教員の任用2名を研究科委員会で決定した。
小項目 11.0.4	11.0.4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。
	(説明) 研究科FD研究会を2010年度に1回開催し、授業運営、特に研究演習の運営について検討し、経験の共有化を図った。

その他

《評価指標データ》

専任教員の年齢別構成【大学基礎データ】
 教員一人当たりの授業時間数【大学基礎データ】
 本学出身の専任教員の構成比率【基本的な指標データ】
 海外の大学で学位を取得した専任教員の比率
 教員組織における実務家教員の占める割合（専門職大学院に限定）
 教員組織における女性教員の占める割合
 任期制教員（契約教員）の採用数
 公募制による採用教員の数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目 11.0.1	
小項目 11.0.2	
小項目 11.0.3	
小項目 11.0.4	
その他	

《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目 11.0.1	
小項目 11.0.2	
小項目 11.0.3	
小項目 11.0.4	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目 11.0.1	
小項目 11.0.2	
小項目 11.0.3	後期課程指導教員任用についての申し合わせ作成が課題である。
小項目 11.0.4	小規模授業の多い研究科でのFD活動をどう進めるかが課題である。
その他	

《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目 11.0.1	
小項目 11.0.2	
小項目 11.0.3	指導教員任用の申し合わせを作成する。
小項目 11.0.4	研究科でのFD活動についてあり方の検討を行う。再編時に研究科を担当することが予想される学部教員の参画も考慮する。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他
(自由記述)

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○少人数の学生を前提としたFDのあり方を十分に検討して頂くことが期待されます。

【学内委員】

○少人数教育においてもFDは必要です。例えば、指導教員以外の教員が研究指導に関与する方策の検討などもFDに相当すると考えられます。FDを広くとらえた検討が期待されます。

○研究科教員の任用に関する学部内の内規・申し合わせは作成できてないが、研究科で決めた方針に基づき前期課程、後期課程指導教員を任用しています。早急に規程化することが求められます。

○要素や大学基準協会の留意すべき事項に沿った説明が求められます。小項目11.0.1～11.0.3は現記述では現状がわかりませんし、小項目に答えているとは言えません。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目11.0.1

基盤評価：「採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていること」「組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていること」

達成度評価：「専門分野に関する能力、教育に対する姿勢など、大学として求める教員像を明らかにしたうえで、当該大学、学部・研究科の理念・目的を実現するために、教員組織の編制方針を定めている」

○小項目11.0.2

基盤評価：「当該大学・学部・研究科の専任教員数が、法令（大学設置基準等）によって定められた必要数を満たしていること」「特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していること」

達成度評価：「教員組織の編制方針に従う教員組織を編成している」（小項目11.0.2&11.0.3）

（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。）

・方針と教員組織編制実態の整合性

・十分な教育活動を展開するための取り組み（例えば、授業科目と担当教員の適合性を判断する措置の導入や、専任教員1人あたり学生数に対する配慮などが考えられる。）

・教員の募集・採用・昇格について、基準、手続を明文化するなど、その適切性・透明性を担保するための取り組み

○小項目11.0.4

基盤評価：なし

達成度評価：「教育研究、その他の諸活動（※）に関する教員の資質向上を図るための研修等を行い、教員・教員組織の質の維持・向上を恒常的かつ適切に行っている。」※ここでいう諸活動とは、社会貢献、管理業務などを含む教員に求められる様々な活動を言う。授業方法の改善等、教育内容・方法の向上を意図した取り組みについては、4（本学では6）教育内容・方法・成果において問う

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

《現状の説明》11.0.2に下記のように追記。

専任教員数については、大学院設置基準によって定められた必要人数を大幅に上回っているほか、教職課程においても、教職課程認定基準等によって定められた必要人数の5倍近くにのぼっている。

《現状の説明》11.0.4に下記のように追記。

参加率は、100%であった。